

2014年(平成26)4月

カルメル
靈性センターニュース



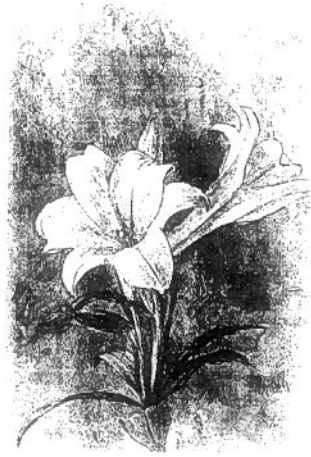
2014年4月

297号

目次

心の泉	1
カルメル会の企画案内	19
諸所の企画案内	37
年間購読(郵送)のご案内	48
編集後記	49

心の泉





第二卷

第四章 心の清さと意向の正しさ

2 清い心

あなたの心が清くて善良なら、すべてをありのままに見て、理解することができる。清い心にとっては、天にも地にも隠されたものがない。人は、自分の心の状態によって、外部のことを判断するものである。この世に喜びがあるとすれば、それを味わうのは清い心の人にちがいない。そしてまた、患難と煩悶とがあるとすれば、それを誰よりも強く感じるのは、良心の濁った人である。鉄を火のなかに入れると、さびが消えて燃え上がるように、心を上げて神に向かう人は、あらゆる倦怠を脱ぎ捨て、新しい人に生まれ変わる。

3 勇気をもって歩む

熱心が冷めはじめると、わずかな苦勞もいとい、進んで世俗の慰めを求めるようになる。しかし、真実に自分に打ち勝って神の道を勇敢に歩めば、前には重くて耐えられなかったことが軽くなったと思いはじめるであろう。

日々神と親しく生きるには

— 4 —



イースターシャボテン

死に打ち勝ち
「復活されえたキリスト」は
「いのちの言葉」を

人々に伝える使命を
わたしたち一人ひとりに
託されました

今日もまた
わたしたちの平凡な生活の中で。

無駄な人生はありません。
無駄な一日もありません。

自分で確認できなくても、「復活されたキリスト」は
すべての人々と「いのち」を分かち合いたいのです。
「復活されたキリスト」のうちに、
「いのち」がみなぎっていることを信じます。
けれども、さらに深く信じさせてください。

日々の汚れ、いたらなさ、失敗、罪の闇に覆われていても、
覆われているからこそ キリストの復活の「いのち」を
さらに固く信じ、希望し、おん父の慈しみに信頼しつづけましょう。
神に近づくのにふさわしいものになるまで待つ必要はありません。

伊従 信子
ノートルダム・ド・ヴィ

『いのちの道』より、サンパウロ社

人を赦す (7)

くのり 彰

コンプレックスを持っているかぎり、人は本当の意味で、他者を赦すことはできないのではないだろうか。絶えず他人と比較し、評価する自分自身の心から自由になっていないからである。そのため、自分よりよく評価される者を嫉妬し、競争心を抱き、より高い評価を得れば有頂天となり、またより低い評価を受けている者をひそかに蔑むこととなる。

コンプレックスの網の中に落ち込み、自縄自縛となっているのがこの世ではないだろうか。東洋に飛ぶと、道元禅師は、こう言っている。

一日示二云ク、学道はすべからく吾我をはなるべし。たとひ千経万論を学し得たりとも、我執をはなれずんば、ついに魔境におつ。古人云ク、「仏法の身心なくは、いづくんぞ仏となり祖とならん」。(『正法眼蔵随問記』5,9)

現代語に直せば、「仏道を学ぶには、必ず自分を離れなくてはならない。どんなに沢山勉強し、学識を積んでも、自分に対する執着がなくならないなら、やがて悪魔の世界に落ち込んでしまう。古人も、自分を捨てて、仏法の身心となるのでなければ、どうして仏となり祖となることができようかと言っている」といったところであろう。

宗教的文化的なコンテクストは異なるが、キリスト教でも同じことが言えると思われる。アビラの聖テレジアも『完徳の道』で、念誦する者の心構え（共同生活の生き方）について、「相互愛、離脱、謙遜」の三つを挙げているが、離脱は、この世の物や人からの離脱、何よりも名誉や富を崇めるこの世的な価値観、物の捉え方からの離脱に他ならない。そしてこれらはみな、自己離脱へと収斂していくのである。

自分にこだわり、自分のことしか考えられない者は、実に不自由な惨めな状態にある。キリストの説く、敵味方の区別なく、だれに対しても公平な相互愛を生きることは、不可能だからである。またコンプレックスの罠にひっかかっているため、この世での相対的な謙遜の内にとどまり、神の前での絶対的な謙遜、無であり罪人であるとの自覚に至ることもない。

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (79)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

あなた達を牢屋に入れなければ(2)

フリアン・デ・アビラは、こう述べています。「司教座聖堂参事会員は、この言葉で、うやうやしく引き下がるだろうと確信しました」。

フリアン・デ・アビラは、彼（司教代理）が近づいて来るのを見て、隠れました。「玄関にあった梯子に隠れました」と、彼は言っています。司教代理は、十字架のヨハネ修士と鉢合せとなり、荒々しく言葉を発しました。

「神父よ、だれがこれをここに置いたのですか」。

ヨハネ修士は、優しく、横柄な態度を取ることなく、何か答えました。司教代理は、非常に冷静な彼を見て、ますます怒り狂い、反対の声をあげました。

「後ですべて片づけなさい。間違いなく私は、あなた達を牢屋に入れなければ…」。

フリアン・デ・アビラは、こう付け加えています。「それを聞いた私は、彼がやった者を逆上して探しまわっていたのですから、見えないように上手に身を隠すべきだと思いました」。

祭壇は解体され、ご聖体は食べつくされました。一種の罰です。

かなり長い会話の後、とうとう事態は解決し、ヨハネ修士は、脅しから解放されました。



「ラザロ、出てきなさい」(ヨハネ 11, 43)。

今日、ヨハネの福音が告げる死後三日たつラザロの生き返りは、「しるしの書」と言われるこの福音が述べる七つのしるしの最後のものであり、それによって、イエスが、すでに実行された他のしるしすべてのうちにも現れていたもの、つまり、生命を譲与するイエスの力の究極のものを指し示しています。そして、イエスが与える生命は、生理的、地上的生命ではなく、神の生命であることも。それで、この福音を死者の蘇生の奇跡としてよりは、神が、イエスを通してどのような生命にわたしたちを招いておられるのか、イエスを通して現され、また、譲与される命を、中心に位置付けるべきなのです。そして、ラザロを生き返らせたイエスは、今日、生きていると思って日々の時間を過ごしているわたしたちをも、自己中心的な閉塞された墓の中のような視野、それは罪に覆われた視野とも言えるものから、神の生命の広々として視野の中に息づき始めさせてくださるために来る、と信じるのです。イエスの「ラザロ、出てきなさい」との叫びが、実は、わたしたち一人一人の心に響き、自己中心的価値観、観点での生命が、イエスによって開かれた世界に向って新しいものとして生き始めさせていただく、これが、今日の福音の中心点であり、そもそも、復活とは、死者の生き返り、蘇生を指し示すのではなく、罪の中に閉ざされていた死んだ命が、神にみによって無償で開かれる広い視野の中に過ぎ越させていただく、これが、復活と言う単語が言おうとしている内実なのです。実は、復活とは、人間の思考から、あるいは、体験、経験から把握しきれるものではありません。それで、復活については、人間の言語が、何を語ったとしても、それは、復活の真実な姿ではなく、真実に向おうとする人間の真剣な努力、しかし、核心には絶対に迫りきれないと誠実に自分の限界を認めている努力に過ぎません。しかし、この無力さ、限界の壁の前に謙虚に留まり続ける、その時、イエスは、わたしたちの期待、想像には遅れてと見えるかもしれないのですが、必ず、わたしたちのもとに来てくださる、マリアとマルタ、ラザロを訪れられたように、恵みの内にわたしたちに「出てきなさい」と、お声を響かせてくださる。このような意味での復活が、もうわたしたちの手の届くところにイエスの恵みによってもたらされている、この人間の知恵と感覚のみでは確認できない、しかし、現実に起こっており、信仰によってのみ確認される現実の究極のしるし、イエスのみが実行できるしるしが、このイエスの友ラザロの生き返りであり、今日の福音が、わたしたちに語ることなのです。ルカ渡辺幹夫

枝の主日（受難の主日）（A）

みことばのひびき

（マタイ27：11～54）

本日、私たちは枝の主日（受難の主日）を祝います。枝の主日はイエスが過越祭を祝うためにエルサレムへ勝利の入城をされたことを記念します。

聖週間の始まりの日で、私たちは救いの神秘の中心に焦点をあてます。死と復活の神秘であり、屈辱と高揚感の神秘です。本日の典礼で、私たちは特にイエスの受難、死、そして復活に対して準備をします。典礼は、イエスの喜びと同時に苦しみを黙想するように招いています。イエスが経験されたことは、私たち一人ひとりに対する神の圧倒的な愛の表われです。イエスの苦しみ、死、復活の「神秘」と一体感を持つことで大きな解放、すなわち様々な罪や奴隷状態から喜びと自由な生活への過越を経験します。本日の典礼は、勝利と悲劇を合わせ持っています。

本日の福音で私たちはイエスが人間として苦しまれたこと、今の時代で考えれば最も野蛮な拷問の苦しみを経験されたことを知ります。またイエスは心理的に苦しんだにちがひなく、この苦しみはより激しいものだったでしょう。それはまるで全ての使命が自分のまわりで崩壊し、全てが失敗にみえたでしょう。イエスの弟子たちは皆イエスを苦しむままに残し、逮捕されると逃げ去りました。苦しみの間イエスはひどい孤独を味わいました。弟子たちはイエスが助けを必要としていた園で眠り込んでいました。イエスを逮捕しようと人々がやって来たときすぐに逃げ去りました。御父でさえ沈黙しているかのようで、イエスの苦しみを少なくするために何もなさいませんでした。十字架から最後の痛切な叫びがあがります。「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか？」しかしこれら全てを通して、イエスの威厳、能力、権威は輝き続け、イエスを捕えた人たちや敵を味方にし続けました。園で祈った後、逮捕に来た人たちに向かって立ち上がる時、イエスの内面の強さと権威を見ます。イエスは裁判官の前に威喝されるのを拒んで、沈黙のうちに威厳をもって立っています。自身の苦しみと侮辱のただ中であって、他の人の必要を考え続け、敵のために祈り、赦されます。「成し遂げられた」との言葉で十字架上の務めを完成され、御父の御旨と使命を達成されます。

「枝の主日」に黙想するとき、私たちはイエスのエルサレムへの勝利の入城のすぐ後に苦しみが続くことを知ります。ホザンナと叫び、メシアと呼んだ人たちが、十字架につけよと叫び、正しい人の代わりに犯罪者を選ぶのです。簡単に言えば、「枝の主日」はイエスの人生の最後の週を考える特別の時です。キリスト者にとって「イエスの受難」の苦悶と、「復活」の喜びに対して心を整えるときです。最後の晩餐、イエスの祭司職、苦しみにおけるイエスの王権、及び究極の勝利の神秘に導きます。イエスは御父に従順であり、全てを救うために苦しみ、死ぬという御父のみ旨を受け入れました。この苦しみをイエスに受け入れさせたのは神と人間に対するイエスの限りない愛です。イエスに合わせて厳粛に歩み、ご復活の栄光にむけて準備しましょう。

(Sr. Paulina)

「主が墓から取り去られました。どこに置かれているのか、わたしたちには分かりません」(ヨハネ 20, 2)。

今日の福音は、信仰の喜びを告げる復活の朝に読まれるのにはふさわしくないと、わたしには思えます。と言いますのは、復活に言及されるのは、「イエスは必ず死者の中から復活されることになっている」と言う聖書の言葉を、二人はまだ理解していなかったのである」との否定的な文脈の中においてだけなのです。この結末に至るまでの一連の事実が淡々と記述されています。マグダラのマリアは墓に行った。そして、墓から石が取りのけてあるのを見た。そして、「主が墓から取り去られました。どこに置かれているのか、わたしたちには分かりません」と、シモン・ペトロともう一人のイエスが愛しておられた弟子に告げに急ぐ。何か回答が得られるかと期待しているのでしょうか。しかし、答えられない二人の弟子たちも、墓に走った、そして、イエスの遺体を包んでいた亜麻布、イエスの頭を包んでいた覆いが、置かれているのを見た。そして、「信じた」。しかし、何を信じたのか。イエスが復活したと信じたのか。いえ、そうではないようです、ただ、マグダラのマリアが「見た」と告げたこと、そんなことはありえないと思った、しかし、これは真実であった、と謙虚に認め、自分たちの判断を超える何かが起こったと信じたのです。「空の墓」を説明する真実な理由は、人間の常識からではなく、神の照らしを待つべきなのです。イスラエルの民の歴史の中での神の働きの真意を把握するまでは、人間には見つけられるものではないのです。他の福音書を見ますと、「空の墓」の理由としてイエスの弟子たちが来て夜中に運び出したと短絡的結論があげられていますが、ここに復活を合理的に説明可能なものとしようとする人間の浅知恵が見えてきます。単純に、事実を叙述する域を出て、一つの解釈、説明をせざるをえない、しかし、この態度は必ず誤った解釈、誤解に陥るのです。これに反して、マグダラのマリアも、二人の弟子たちも「空の墓」の理由は分かりません、そして、何の解釈をも加えず事実を単純に報告します。人間の知恵を超える現場、「空の墓」の状況に驚きを持って直面し、地上のイエスの言行を、また旧約聖書における神のなさり方を想起しつつ、神からの照らしを待っているのです。わたしたちも、自分の生活の体験を、旧約、新約の聖書と思い合わせて、神の照らしの中で読み取るとき、神不在のような現実の中にも、復活者イエス・キリストが共におられるとの信仰の確信に導かれます。ルカ渡辺幹夫

復活節第二主日 (神のいつくしみの主日) (ヨハネ 20: 19-31)

教会は今日神のいつくしみの主日を祝います。イエスにおいてわたしたちに与えられた神の愛といつくしみを思い巡らし自分のものとするためです。

ヨハネによる福音はご復活後のイエスについて記しています。イエスが死者の中から復活された日の夕方、弟子たちが戸に鍵をかけひそかに隠れ集まっていたその真ん中に立ち、“あなたがたに平和があるように”と仰せになり釘と槍のあとのある手と脇腹をお見せになりました。イエスは“シャローム”というユダヤ人たちがいつも交わしている挨拶をもって弟子たちに平和のメッセージをお与えになりましたが、これはまた最後の晩餐の時に弟子たちになさった約束の実行でもありました。イエスは平和を、その平和はイエスに従うものであるという理由でどんな試練を受けようとも、決して取り去られることのない平和を約束しておられたのです。キリストの現存は平和のしるしです。このイエスに対しての弟子たちの応答は喜びです；イエスが今も生きておられ、彼らと共にいてくださることは、どう表現したらよいかわからない程の、とてつもない大きな喜びでした。

福音が示している三つのことを考えてみましょう：宣教の精神、見て信じること、見ないで信じること。最初にイエスは弟子たちに平和をお与えになります、世が与えるようなものでないイエスご自身の平和です。それから聖霊の賜物をお与えになります、これは天の御父からのもので、弟子たちに全てのことを教え、またイエスが言っておられたことを弟子たちに思い起こさせるためのものです。イエスは弟子たちに息を吹きかけ、赦し、愛し、教会を建てる使命をお与えになります。次にトマスを眺めましょう。トマスはイエスを見て信じました。トマスにありのままの姿を見てほしいとご自身を差し出されるイエスにトマスは“わたしの主、わたしの神よ”と自分の信仰を告白します、イエスの脇腹に手を入れて確かめることはせずに。彼の信仰は完全で彼の全てです。最後にわたしたち自身のことを考えてみましょう。イエスに出会ったことのない多くのキリスト者たちは、わたしたちも、イエスを信じ、その信仰に生きています。わたしたちは復活のキリストを信じています。

今日は神のいつくしみの主日です。2000年4月30日に教皇ヨハネパウロ二世が聖ファウスチナの列聖のときに名づけられ、正式にヴァチカンによって認可された主日です。この日には聖週間と主の復活後の八日間の全ての超自然的な真理と恩恵が一点に結集されています。復活されたキリストの光を全世界のための神の慈しみの愛と恩恵に集中させています。聖ファウスチナに現われたイエスはこの日を特別な祝日として欲しいと言われました。イエスの深い優しさを心に留め、いつでも、どんなときにもいつくしみのイエスのみ許に戻る事が出来るようになるためです。どんな靈魂もイエスに近づくことを恐れないようにしましょう。いつくしみの祝日はイエスの優しさの深みから溢れ出た祝日ですから。

次の祈りをもって終わりたいと思います。“聖なる神、聖なる全能の神、聖なる不滅の神よ、わたしを、また全世界を憐れんでください。”

(Sr. Paulina)

老齢となり家にいる時間が長い分、テレビでオリンピックの競技をたくさん観ました。

前回のバンクーバーの時、身だしなみが悪いと大騒ぎをしたスノーボードハーフパイプの国母和宏選手のことを、当誌253号に少し触れたのがご縁で、私にとってすっかり身近になったハーフパイプ競技は今回も大いに気に入って楽しみました。10代の初々しい二人の選手が、銀メダルと銅メダルを獲得する輝かしい成績をおさめ、その上聞くところによると、国母氏はコーチの役割を果たしていたようで、然もありませんと気分は上上でした。

そして実は、私のお目当てはフィギュアスケートなのです。

特に浅田真央選手は何を隠そうジュニアの頃から目を留めて応援している私のアイドルなのです。真央ちゃんを応援する時、このおばあさんはテレビに向かって手足をバタバタさせあれやこれやと大声でわめくので、夫は隣の部屋にいても状況は手に取るようによくわかるといつも云います。

比類のない少女らしい純真さ、邪気のなさ、それなのにどの大人にも増して確かなゆるぎないものを湛えていて信頼感をいだかせます。国民的アイドルといわれる所以でしょう。

今私は、浅田真央のあのフリーの演技を観て、自分の内に動いた大きなどてつもないものを語ろうとして、言い表わす手がかりを探しあぐねています。

周知のように前日のショートプログラムはまさかという顛末で、茫然自失の態。とり返しのつかない失敗、絶望のどん底と本人も云う悪夢の現実。前代未聞の16位という順位。なぜこんなことになってしまったのか浅田真央選手も、コーチも、解説者も全く分からないという状況は、観衆もただあつけにとられるしかありませんでした。翌日はフリーの競技が控えています。この日の夜を何を考え、何を思い、どのように過ごしたのかと察して余りあるものが迫り来て胸が塞ぎます。長い競技生活の経験の中にはこうしたこともあったでしょうが、それにしても今回だけは特別の日なのです。

必至の目標であるオリンピック金メダル、一心不乱に歩んできたスケート人生の集大成と自らも位置づけていて、普通には不可能とされる訓練を超人的に成し遂げて、殆ど完成に達していたはずだといえます。

フリーの演技が始まる瞬間、固唾をのむ静けさが場内を圧するように支配しました。

私も緊張感に身が固まる思いで息をつめました。

ラフマニノフの美しいピアノの調べに乗って、恐ろしいほどに張りつめたものが上昇しました上昇し、緊迫をもって頂点へと向かい、そして遂に完結して天空へ消えゆくように終結する。

ほんとうにこのようなことは一体どうしたら起こり得るのでしょうか。

技術の上で浅田真央以外には誰もなしえないとされる至難のプログラムがここに見事に結実したのです。 透徹した舞は自己最高点の快挙でした。

解き放たれた満場総立ちの歓声のなかで、上を向いたポーズをきめたその瞳から、はらはらと涙がこぼれました。 一切すべてが解き放たれてこそ全身から湧き上がってくるものを、抑えることはできなかったでしょう。 そして、涙の中にやっと花開くようにほころんだトレードマークの笑顔の何という清らかさ、穏やかさでしょうか。

このフリーの演技を私は何度観てもなぜかその度に泣いてしまうのです。現地にまで応援に行っている若い女性の言葉にこころをとめました。「ショートは16位だし、フリー当日の朝の練習も気に入ってないし、ジャンプも全然成功しないし、ああもうダメと思ったのです。その自分を本当に恥じています。恥ずかしく思います。」望みを失い見放した自分の心と出会ったのでしょうか。

確かにこの劇的な出来事は、浅田選手だけのことにとどまらず、観ている人にとって自分のことの深さをもって届いたのだと思います。 もしこれが皆の期待通りの範囲で安全に勝ち進み、金メダルをとって日の丸が挙がったとしても「私のこと」にはならなかったのではないのでしょうか。

結局はメダルもない6位です。 しかし、世界中の多くの人の心をひきつけ動かし、競技のライバルはこぞって賛辞、謝辞を贈ったのです。

幼い頃からの負けず嫌い、たゆまぬ努力、不屈の精神、全ては実力です。

しかしそこに天の配剤とでも呼びたい運の強さというのでしょうか、そういった何か別の方角からやってくるものを感じたことでもありました。

「望みえないのになおも望みつつ信じた」ローマ人への手紙の一節は、若い日の苦しい中に心に深く刻まれたものです。 今日そこに新しい光を受けとったような気がしています。 自分の側のことでなく、清らかな開けの地平に招かれる向うからの贈り物であるということ。

ソチオリンピックのフィギュアスケート競技を観たことに、深い感謝の気持ちをもちます。

いのちの言葉 4月

あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。
わたしがあなたがたを愛したように、
あなたがたも互いに愛し合いなさい。

(ヨハネ 13・34)

イエスがこの言葉を語られたのは、ご受難の前のことです。遺言となるイエスの別れの言葉に含まれるものですから、どれほど大切かがわかるでしょう。死を前にした父親の言葉は、忘れられないものですが、ましてそれが神の言葉ならどうでしょう。この言葉を真剣に受けとめ、深く理解するよう努めましょう。

イエスは死を目前にされており、言葉からもそれが強く感じられます。実際、イエスは地上を去るにあたり、解決すべき問題がありました。教会を発展させるため、どうすればご自分が弟子たちの間にとどまることができるか、ということです。

イエスは秘跡の内に現存され、ご聖体の内にもおられます。

そして人々が相互愛を生きる場所にもイエスはおられます。実際、彼は「二人または三人がわたしの名によって集まる(これは互いに愛し合う時に可能になります)ところには、わたしもその中にいる」(*1)と言われました。ですから、相互愛に深く根ざしている共同体の内に、イエスは生き生きと現存されます。そしてこの共同体を通して、イエスはご自身を世に示され、影響を及ぼされます。すばらしいことだと感じませんか。すぐにこの愛をキリスト者の隣人と実行したいと思うでしょう。

このみ言葉はヨハネによって書かれてましたが、彼は相互愛を教会の最も大切な掟と捉えています。教会の使命は、まさに交わりであり、一致であるからです。

あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。

イエスは「互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる」(*2)と言われます。もしあなたが、キリストの弟子の本物のしるし、特徴を知りたいなら、相互愛の内にそれを見出すべきでしょう。キリスト者は、これによって区別されます。もし相互愛が欠けているなら、世はもはや教会の中にイエスを見出せないでしょう。

相互愛によって一致が生まれますが、一致があるとき、何が起こるでしょう。イエスは更に「すべての人を一つにしてください。…そうすれば、世は信じるようになります」(*3)と言われます。一致は、キリストの現存を示しながら世をひきつけ、世は彼に従うようになります。一致と相互愛を目のあたりにする時、世はイエスを信じるのです。

あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。

イエスはこの掟を「私の掟」と言われます。ですから、イエスにとって特に大切な掟であり、これを単なる義務や規則、あるいは他の掟と同じように考えてはならないでしょう。この掟を通して、イエスは私たちに一つの生き方を示され、どう生活していくべきかを伝えようとされます。実際、聖ペトロが「何よりもまず、心を込めて愛し合いなさい」(*4)と言っていたように、初代キリスト者は、この掟を人生の基盤としていました。

仕事や勉強の前に、またミサの前や、あらゆる活動の前に、自分と兄弟の間に相互愛があるかどうか、確かめてみましょう。もしあるなら、愛の基盤があるので、すべてに価値がありますが、この基盤なしには、神は何も喜んではくさいません。

イエスは更に、これを「新しい掟」と言われます。それは、この掟があまり知られていなかったからではなく、新しい時代のためにあるという意味で、「新しい」のです。これはどういうことでしょう。

イエスは私たちのために死なれ、極限まで私たちが愛してくださいました。彼の愛は、無論私たちの愛とは違い、常に「神の」愛です。イエスは「父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛してきた」(*5)と言われますから、御父と御子が愛し合うその同じ愛で、イエスは私たちが愛してくださいましたのです。

私たちも「新しい」掟を実行するためには、この同じ愛で愛し合う必要があるでしょう。人間である以上、私たちはこの愛を持ち合わせてはいませんが、幸いなことに、キリスト者としてそれをいただくことができます。与えてくださるのは聖霊です。聖霊は、あなたの心、すべてのキリスト者の心に、この愛を注いでくださいます。

いただいている神聖な唯一の愛ゆえに、御父と御子と私たちの間には、相通じるものがあります。この愛によって、私たちは三位一体の内に入れていただき、神の子とされるのです。

この愛は大きな流れのように、天と地を結ぶものです。この愛によって、キリスト者共同体は神の高さへ導かれ、地上でキリスト者が互いに愛し合う所に神の存在がもたらされます。

こうしたことすべてが神聖ですばらしく、キリスト者の生活はとても魅力的だとは思われませんか。

キアラ・ルービック

* 今月の言葉は1980年5月に発表されたものです。

*1 マタイ18・20

*2 ヨハネ13・35

*3 ヨハネ17・21

*4 ペトロの手紙－4・8

*5 ヨハネ15・9

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

連絡先

フォコラーレ: 03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail: tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ: フォコラーレで検索

<http://focolare.world.coocan.jp/>

ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧（175）



両親の悲嘆

多くの両親は、誕生の時やとても幼い頃に子供の死に直面し、苦しまなくてはなりません。おそらく、子供を失うこと以上に大きな苦しみはないでしょう。なぜなら、子供が成長し、美しく健康で成熟した優しい人となるのを見たいという父親と母親の願いが、根底からくつがえされるからです。大きな危険は、子供の死が両親の生きる意欲を奪い取ってしまうことです。そこには、両親の側に、子供たちは、たとえその生涯が短くとも、自分のたちの生涯を深め富ませるために、神から与えられた贈り物であることを、真に信じる信仰の途方もない飛躍が求められています。

両親がこのような信仰の飛躍を行うことができた時にはいつでも、子供たちの短い生涯は、彼らの期待をはるかに超えた実りをもたらすのです。

(0824)

身を起こすこと

終末について、イエスは、こう言っています。「それから、太陽と月と星に徴が現れる。地上では海がどよめき荒れ狂うので、諸国の民は、なすすべを知らず、不安に陥る。人々は、この世界に何が起こるのかとおびえ、恐ろしさのあまり気を失うだろう。天体が揺り動かされるからである。そのとき、人の子が大いなる力と栄光を帯びて雲に乗って来るのを、人々を見る」（ルカ 21:25-28）。これらはすべて、すでに起こっています。神の心に深く耳を傾けている者にとって、この世の絶望や大いなる解放の到来は、ともに、毎日、目にすることができるのです。

それでは、私たちはどうすべきなのでしょう。イエスは、はっきりとこう言っています。「身を起こして頭を上げなさい。あなたがたの解放の 때가近いからだ」（ルカ 21:28）。ここには実に大きな希望があります。私たちは気を失う必要はなく、私たちの主を、手を広げて迎えるために、身を起こすべきなのです。

(0917)

(九里 彰訳)

*****絵本のための小さなおはなし*****

「ガラスのバラの絵のお話」

すごく文句たれ兵衛(ベエ)の蜜蜂のおじさんがいました。すぐに腹を立てるし、いつも文句ばかり言って仲間の蜜蜂を脅かしています。花の蜜を集めに行くこともなく、巣の中で羽を鳴らして、

「ブブブブ」

「ジジジジ」

「ダダダダ」

とそれはもの恐ろしい勢い。

ある日久しぶりに文句たれ兵衛は、外に出てみました。行ってみたこともない、人家のあるほうへ飛んでいくと、薔薇がたくさん咲いていました。その中に、一本だけ、ガラスの薔薇がありました。すりガラスでできた花びらに、とげはなく、兎の毛のようにこ毛が生えているだけです。こんなに人家に近いのに、誰もこの薔薇の美しさに気がつきません。テレビのリポーターがやってきてがなりたててテレビにうつそうとしたり、大勢人が弁当持ってやってきて、携帯でカメラに撮ったりしません。それはそれは静かに、想いにふけて咲いているのです。

文句蜂は、ついにその薔薇のところに行って、花にとまりました。中からは、青い花のつゆ草を絞ったような清らかな香りの、蜜がたたえられています。その蜜をなめて、初めて文句蜂にも心の平和が訪れました。巣に帰っても、誰にも羽で音を立てて脅かさなくなりました。たった一度でも、その蜜を味わったものは永遠の平和を得るといいます。



跣足カルメル修道会HP (International)

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>



ORDEN
CARMELITAS DESCALZOS
• CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO •

<< Communications (時事通信) >>

教皇フランシスコは、跣足カルメル修道会 ザヴェリオ・カニストラ総長の個人謁見を受ける

2014年3月5日

教皇フランシスコは、跣足カルメル修道会 ザヴェリオ・カニストラ総長の個人謁見を受けられました。教皇様との謁見は午前11時から11時40分までの40分行われました。その後、元フランス大統領のジスカル・デスタン氏が謁見に見えました。ザヴェリオ総長は、総長館の共同体に、多少内々に、あたかも兄弟と話している兄弟のように感じたと述べました。

まず最初に、総長は、教皇様の言葉と行いのゆえに、跣足カルメル修道会が教皇様に対して抱いている愛と親密さを表明しました。そしてテレジア的カルメル会の会員たちは、とても誇らしく感じており、その働きに実りがもたらされるようにと祈るカルメル会の確かな祈りに信頼を置いてくださいと述べました。

その後、教皇様と総長は、教会の善となり、カルメル会の善となる共通善を模索しながら、跣足カルメル会の修道女、姉妹たちについて話し合われました。



最後に、総長は、会の創立者であるイエスの聖テレジア生誕500周年祭をお祝いするために、スペインに来られるよう招待されました。これは、最近、スペインの司教団によってもなされました。

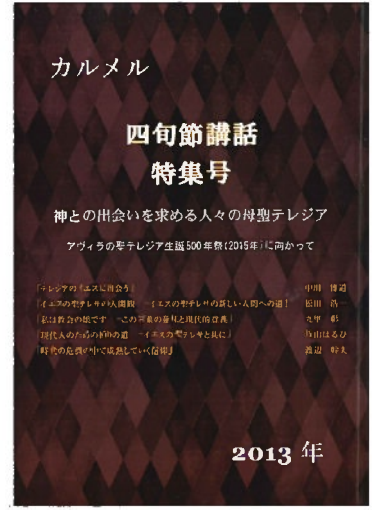
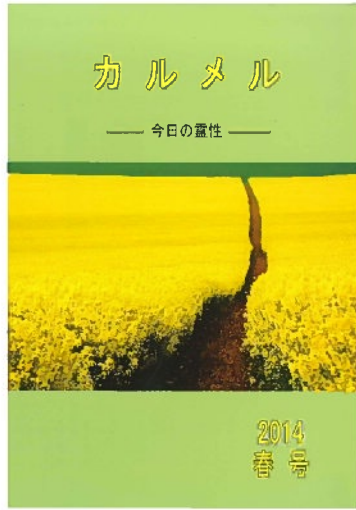
それから、ホセ・アステリオ神父の着想により、コロンビアのシウダー・デ・ディオスに建てられた10修道院創立の写真アルバムが、総長から教皇様へ贈られました。この写真アルバムを通して、総長は、全ての人々のために最善を求めておられる神がいかに私たちの身近におられるかを、また祈りを通して、また罪深い構造を変えようとする願望を通して、到達し得る身近な神を、教皇様に示したかったのです。

最後に教皇様は、ザヴェリオ総長に、幼きイエズスの聖テレジアへの信心には決して裏切られたことはありませんと打ち明けられました。教皇様がリジューの聖テレジアに願いをささげられると、いつも何らかの方法で答えが与えられるとのこと。バラの花は、降り続けているのです。

私たちは教皇フランシスコに感謝申し上げます。跣足カルメル修道会はいつも、主のみ前に教皇様の願い事と懸念と希望を、お捧げいたします。教皇様が私たちの総長に親しくお言葉をかけてくださったことに対し、心より感謝いたします。教皇様、どうぞ私たちの祈りに期待してくださいますように。



「カルメル」
今日の霊性・春号
四旬節講話特集号



2014 春 No.352

カルメル 2013 特集号
「神との出会いを求める人々の母
聖テレジア」

神が慈しまれた道 (1)	老夫婦は連れだって散歩に	西行と芭蕉の霊性 (3)	ローマ物語 (1)	聖なる冒険 (1)
奥村 一郎	森 みさ	田畑 邦治	ローマでの養成	モーセ
53	47	40	高橋重幸	ボウリン・フェルナンデス
			35	28

修道院の窓から (3)	二人の聖テレジア (1)	自分の内に生きることなく生きる (1)	エジット・シユタインと聖テレサ (1)	二人の聖テレジア (1)
原 造	伊従信子	九里 彰	回心とカルメルへの道	イエスの聖テレサと幼きイエスの聖テレサ
25	9	3	須沢 かつり	イエスの聖テレサと幼きイエスの聖テレサ
	18			伊従信子
				9

現代人のための祈りの道	「私は教会の娘です」	イエスの聖テレサの新しい人間への道	テレジアのイエスに出会う
片山はるひ	九里 彰	松田浩一	中川博道
37	24	12	2

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。(カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等) 定価は、一冊460円です。

- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円 (+送料140円)】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費 (年5冊：春夏秋冬号・特集号【460円×5=2,300円】+ 送料【700円】計 3,000円) を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会
お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356

カルメル会の企画案内



上野毛霊性センター ～ ‘15年3月

黙想企画 ** 上野毛聖テレジア修道院 (黙想) **

1. 祭日のミサに参加するために

【聖週間】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。
2014年 4月17日(水)～20日(日)《講話なし、各食事つき》

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
2014年12月24日(水)～25日(木)《講話なし、夕食なし》

2. 木曜黙想会 (毎回木曜日10時～16時) 昼食つき

お申込みは3か月前からお受けします。どなたでも参加できます。

9月11日	聖体の秘跡	ベルナルド神父
10月9日	人となられたみことば	古川利雅神父
11月13日	神に生かされて貧しさを生きる	中川博道神父
12月4日	無原罪のマリア	渡辺幹夫神父
2015年		
3月5日	洗礼と主の晩餐	福田正範神父

3. 金曜黙想会 カルメルの霊性 (毎回金曜日10時～16時) 昼食つき

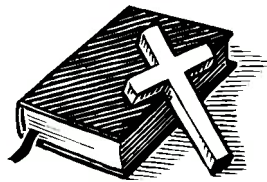
お申込みは3か月前からお受けします。どなたでも参加できます。

4月11日	ヘルマン・コーヘン	古川利雅神父
7月4日	カルメル山の聖母	中川博道神父
10月31日	永遠の命への憧れ 聖テレジア	渡辺幹夫神父
2015年		
1月16日	聖テレジア・ベネディクタ (エディット・シュタイン)	福田正範神父

4. 奉献生活者の為の黙想会

8月1日(金)18時～	8月10日(日)	福田正範神父
8月15日(金)18時～	8月24日(日)	古川利雅神父
10月10日(金)18時～	10月19日(日)	福田正範神父
12月27日(土)18時～	2015年1月5日(月)	福田正範神父

5. 青年黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士
4月25日(金) 18時～27日(日) 16時
11月22日(土) 15時～24日(月・振休) 16時
6. 召命黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士
9月13日(土) 15時～15日(月・振休) 16時
7. 特別黙想会 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)
初日の夕食は済ませてご参加下さい。
5月23日(金) 20時～25日(日) 16時「聖霊と祈り」
11月 1日(金) 20時～ 3日(月) 16時「慈しみの愛と祈り」



※) 注 2014～15年の予定は、今後変更の可能性があります。

電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんので、
なるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25 聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355 / FAX 03-3704-1789

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp



2014年

カルメル会四旬節講話シリーズ

場所: カトリック上野毛教会聖堂(東急大井町線上野毛駅下車徒歩7分)

世田谷区上野毛2-14-25 カルメル修道会(TEL.03-3704-2171)

日時: 下記の各日曜日 午後2:30開始 講話後主日ミサ

共通テーマ: 「イエスの聖テレジアのカリスマとその広がり」

3月 9日

「テレジアの信仰共同体の中での影響」

渡辺幹夫(カルメル修道会)

3月16日

「二人のテレジア アピラのテレサとリジューのテレーズ」

伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

3月23日

「テレジアと出会った十字架のヨハネ」

九里 彰(カルメル修道会)

3月30日

「テレジア的カルメルの中の三位一体のエリザベト」

松田浩一(カルメル修道会)

4月 6日

「エディット・シュタインとテレジアー出会いと霊的絆」

須沢かおり(ノートルダム清心女子大学教授)

聖週間の典礼に参加するための黙想会

聖なる過ぎ越しの三日間の典礼に参加し、黙想しましょう。

*日時: 4月17日(木)夕食~20日(日)朝食後 10時まで

17日(木)は、午後3時より入室できます

*費用: 一泊¥5000(一泊から可)

*お問合せ・お申込みは、上野毛聖テレジア修道院(黙想)

電話: 03-5706-7355 FAX: 03-3704-1789

Eメール:mokusou@carmel-monastery.jp

*****上野毛教会聖週間の典礼ご案内*****

4月17日	聖木曜日	6:30	読書の祈り・朝の祈り
		19:30	主の晩餐の夕べのミサ 洗足式
4月18日	聖金曜日	6:30	読書の祈り・朝の祈り
		15:00	十字架の道行
		19:30	主の受難
4月19日	聖土曜日	7:00	読書の祈り・朝の祈り
		18:30	復活の聖なる徹夜祭 洗礼式
4月20日	復活の主日	7:00	8:30 10:30 18:00

金曜黙想会

— ヘルマン・コーヘン —

(Hermann Cohen 1821.11.10 – 1871.1.20)



ピアノの巨匠、リストの愛弟子。演奏活動の傍ら、放蕩の限りを尽くしたヘルマン。しかし神の豊かな愛と慈しみが彼に注がれ、回心、洗礼、カルメルへ導かれます。音楽家のカルメル会士として生き、ドイツの収容所で捕虜に奉仕しながら帰天…。数奇な運命を歩んだヘルマンの生涯を眺め、恵みのうちにともに過ごしませんか？

2014年4月11日（金曜日）10時～16時まで

場 所 : 上野毛聖テレジア修道院（黙想）
指 導 : 古川利雅神父（カルメル修道会）
会 費 : 3,500円
持ち物 : ノート、筆記用具。

お申込み・お問合せは、ハガキ、FAX、E-mail、TEL のいずれかで下記まで。

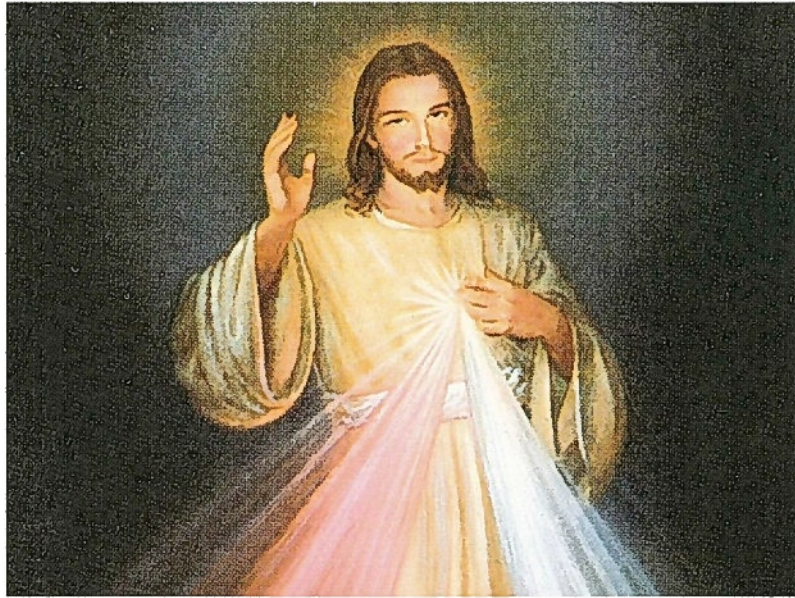
黙想会名と日程、氏名、年齢、性別、住所、連絡先電話番号、所属教会を明記の上、申込みをお願いします。

158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想)
TEL 03-5706-7355 FAX 03-3704-1789
E-mail mokusou@carmel-monastery.jp



カルメル青年黙想会

生きるイエスを探して



- 日時 : 4月25日(金) 18時 ~ 27日(日) 16時
場所 : カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)
対象 : 高校生以上の青年男女(35歳まで)
定員 : 20名
費用 : 一般 10,000円 学生 7,000円
締切 : 4月18日(金) <必着>
指導 : 福田正範神父・カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、ハガキ・FAX・E-mailの何れかで下記まで。折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。

158-0093 世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)
電話: 03(5706)7355
FAX: 03(3704)1789
E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp

特別黙想会 《わたしは神をみたい》

聖霊 と 祈り

2014年5月23日（金）20時～25日（日）16時

わたしは父が約束されたものをあなたがたに送る。

高い所からの力に覆われるまでは、都にとどまっていなさい。

（ルカ 24・49）



神は聖霊の賜物によって かなり頻繁に

そして深く介入されるので その人は 神とほとんど常に
関わっていることができるようになります

『わたしは神をみたい』

—幼きイエスのマリー・エウジェンヌ、ocd—

- 指 導： 伊従 信子（ノートルダム・ド・ヴィ会員）
 - 持 参 品： 新約聖書、『いのりの道—幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師と共に』
聖母文庫（黙想の家で購入できます。）筆記用具、パジャマ
 - 参加費：
 - 場 所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）
158 - 0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25 Tel. 03-5706-7355
- 申し込み方法 FAX 03-3704-1789
Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp
または、ハガキにてお申し込みください。

カルメル会出版物のご案内



「神のさすらい人」
アビラの聖テレサ
マルセル・オクレール著
福岡カルメル会訳



「創立史」
イエズスの聖テレジア著



「靈魂の城」
イエズスの聖テレジア著



「カルメル山登攀」
十字架の聖ヨハネ著
奥村一郎 訳

●お問合せは下記まで

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）

TEL 03-5706-7355 FAX 03-3704-1789

E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp

2014年～2015年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

【一般のための黙想】

・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)			
2014年	1月 11日(土)～ 12日(日)	念祷生活	今泉健神父
	5月 24日(土)～ 25日(日)	キリスト教の人間共同体	松田浩一神父
	7月 12日(土)～ 13日(日)	聖母マリア	今泉健神父
	9月 6日(土)～ 7日(日)	神の慈しみの歌	松田浩一神父
	11月 1日(土)～ 2日(日)	死についての黙想	今泉健神父
2015年	1月 10日(土)～ 11日(日)	神の栄光・生きている人間	松田浩一神父

【聖書深読黙想会】

・ 1日 (午前10時～午後4時)			
2014年	2月 1日(土)		九里彰神父
	4月 5日(土)		九里彰神父
	6月 7日(土)		九里彰神父
	9月 13日(土)		九里彰神父
	11月 29日(土)		九里彰神父
2015年	2月 7日(土)		九里彰神父

【水曜の黙想】

・ 1日 (午前10時～午後4時)			
2014年	1月 15日(水)	キリスト信者の祈りのカテキズム	松田浩一神父
	2月 5日(水)	イエスの奇跡	今泉健神父
	3月 26日(水)	四旬節の心	松田浩一神父
	4月 16日(水)	キリストの受難と死	今泉健神父
	5月 14日(水)	キリストの教え(神の救いの御計画)	松田浩一神父
	6月 18日(水)	イエスの御心を思う	今泉健神父
	7月 23日(水)	キリストの教え(神の救いへの参加)	松田浩一神父
	9月 17日(水)	福音的な小さい道	今泉健神父
	10月 8日(水)	キリストの教え(神と共に歩む)	松田浩一神父
	11月 12日(水)	死者の月に祈る	今泉健神父
	12月 17日(水)	テレサと祈り	松田浩一神父
2015年	1月 14日(水)	神の国は近づいた	今泉健神父
	2月 11日(水)	キリストの教え(神と人間の尊厳)	松田浩一神父
	3月 25日(水)	神のお告げ	今泉健神父

【四旬節の黙想】

・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)			
2014年	3月 8日(土)～ 3月 9日(日)	十字架と信仰	九里彰神父
	3月 22日(土)～ 3月 23日(日)	人間となった神の子へのキリストの信仰	松田浩一神父
2015年	2月 28日(土)～ 3月 1日(日)		
	3月 28日(土)～ 3月 29日(日)		

【待降節の黙想】

・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)			
2014年	12月 13日(土)～ 12月 14日(日)	神の子の誕生	九里彰神父

【聖テレーズの黙想】

・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)			
2014年	9月 30日(火)～ 10月 1日(水)		伊従信子師

【キリスト教霊的同伴】

・ 3泊4日 (午後8時～午後3時) 限定10人			
2014年	5月 3日(土)～ 5月 6日(火)		松田浩一神父

【カルメル青年の集い】

・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)

2014年 4月27日(土)～ 4月28日(日)

今泉健神父

11月23日(土)～11月24日(日)

今泉健神父

【一般のためのカルメルの霊性入門】

・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)

2014年 2月8日(土)～ 2月9日(日) 「イエスの聖テレサ的カルメル霊性 NO. 2」

松田浩一神父

10月14日(火)～10月15日(水) イエスのテレサ生誕500周年開始

松田浩一神父

【奉献生活者の黙想】

(午後5時～午後9時)

2014年 7月31日(木)～ 8月9日(土)

松田浩一神父

8月19日(火)～ 8月29日(金)

今泉健神父

12月27日(土)～ 1月5日(月)

松田浩一神父

祭日のミサに参加するために

【聖週間を祈る】

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

4月16日(木)～ 4月20日(日)

{講話なし、各食事つき}

【クリスマス】

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30

12月24日(水)～12月25日(木)

{講話なし、各食事つき}



—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の、

お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間をお願いいたします。受け付けが休みの場合は、

その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457

E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp



イエスの聖テレサ列福 400 年記念講話と ミサへのお誘い

場所 : 男子跣足カルメル修道会宇治修道院 (京都)

日時 : 4月26日(土) PM1:00~PM4:00 まで

講話 : カトリック教会内でのイエスの聖テレサ
(アヴィラの聖テレジア) の教会博士への歩み

参加者 : イエスの聖テレサに関心のある人

スケジュール

PM1:00~2:00 講話<資料を配布します>
PM2:10~3:10 ミサ
PM3:15~4:00 交流会<お茶を用意します>

費用 : 自由献金

講話 : 松田浩一 神父 (カルメル会士)



男子跣足カルメル修道会 宇治修道院へのお問い合わせ

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

男子跣足カルメル修道会宇治修道院

TEL 0774-32-7456

FAX 0774-32-7457



teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

— 一日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人 30 分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】 6 人

【開催日】

- | | | |
|---|-------|------------------|
| ① | 2014年 | 1月24日(金)～25日(土) |
| ② | | 2月21日(金)～22日(土) |
| ③ | | 3月28日(金)～29日(土) |
| ④ | | 6月 6日(金)～ 7日(土) |
| ⑤ | | 7月 4日(金)～ 5日(土) |
| ⑥ | | 9月12日(金)～13日(土) |
| ⑦ | | 10月 3日(金)～ 4日(土) |
| ⑧ | | 11月 7日(金)～ 8日(土) |
| ⑨ | | 12月 6日(金)～ 7日(土) |



(毎回金曜日 20 時(夕食なし)～土曜日 15 時)

【参加費】 各回 6,500 円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12
カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)
Tel 0774-32-7016、Fax 0774-32-7457
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

2014年度 名古屋カルメル霊性センター《都会の中の一静修》

2003年から始まりました《都会の中の一静修》は、今年で12年目を迎えることになりました。

カルメル会は、今その聖女、イエスの聖テレサ（アヴィラの聖テレジア）の生誕500年（2015年）を祝おうとしています。そのために、世界のカルメル会は聖女の著作を読み返しながら、その霊性を味わおうとしています。

幸いなことに、日本のカルメル会も、昨年および一昨年の四旬節講話で、聖女の霊性をいろいろな視点で味わい深めて、参りました。それらを振り返りながら、いろいろな切口で、聖女の霊性の中に浮かび上がるカルメルの霊性、さらにはキリスト者としての霊性を味わい深めることができたらと願っております。

《2014年度の年間テーマ》

「聖テレジア（アヴィラ）の私たちへのメッセージ」

—2015年：生誕500年に向かって—

- 第1回静修 1月13日（月・祝） 『テレジアが出会ったイエスを訪ねて』
中川博道神父（上野毛修道院）
- 第2回静修 3月1日（土） 『靈魂の城』
今泉健神父（宇治修道院）
- 第3回静修 5月31日（土） 『小品集』
古川利雅神父（上野毛修道院）
- 第4回静修 7月21日（月・祝） 『私は、あなたのために生まれた』：
：人間の召命に生きる 松田浩一神父（宇治修道院）
- 第5回静修 9月23日（火・祝） 『アヴィラの聖テレジアと祈り』
Sr. Paulne（宣教カルメル会修道院）
- 第6回静修 11月3日（月・祝） 『テレジアと出会った十字架の聖ヨハネ』
九里彰神父（本部修道院）

- * 時間 AM10:00~PM4:00
- * 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分
聖テレジア幼稚園隣接)
- * 参加費 1,000円
- * 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当など
- * 定員 約30名

- * プログラム
 - 10:00~ 祈り・導入・黙想
 - 10:30~ 講話(1)
黙想・赦しの秘跡または面接
 - 11:50~ 昼の祈り・お告げの祈り
 - 12:15~ 昼食
 - 13:00~ 黙想・赦しの秘跡または面接
 - 13:30~ 講話(2)
 - 14:45~ ミサ
 - 15:30~ 茶話会・分かち合い
 - 16:00~ 終了予定

☎申し込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名・住所・TELなどを記載の上、
(信徒の方は所属教会も記入)開催日の3日前までに、下記へご送付ください。

なお、日比野教会で葬儀などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆カルメル会日比野修道院

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17
FAX 052-671-1825

☆ 問い合わせ先

小林 TEL052-701-3685

霊性センター

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14:30～講話

15:30～ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日 三馬教会 聖堂

13:30～聖書朗読、短い講和

14:30～ベネディクション、聖体顕示

15:30～聖体拝領

16:00～サルヴェレジナ、終了

沈黙の祈りのうちに神様と語り、またご聖体のイエス様と
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう

カルメル霊性センター

〒921 - 8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076 - 276 - 7788



聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

祈りと記念の手帖



わたしと神、わたしと大切な人々との出会いを記し、日々祈り、記念するための永年手帖

—推薦の言葉— Br.田中直 (聖パウロ修道会)

祈りによってさまざまな垣根が取り払われ、天と地が結びつき、人と人とが支え合うことができます。この手帖によって祈りの輪が広がっていくことを願っています。



* Br.田中は、日々の出会いを記念した祈りを実践していらっしゃいます。

〔収録内容〕

- 九里彰「記念し、祈る」
- 曜日のないダイアリー：誕生日、結婚記念日、受洗日、命日などを自由に記入できます
- 年ごとの記録：10周年、金祝などの覚えに役立ちます
- 絵画（カラー）と解説：祈りに向かう心、空間をつくるために
- 祈りと祈りのヒント（カルメル修道会監修）：主の祈り、聖人たちの祈り、年始・年末の祈り（高橋重幸・晴佐久昌英）や「祈りの小道」、聖句、詩などを豊富に収録



オリエンズ宗教研究所 編
ISBN 978-4-87232-085-5 C0016
A5判・200頁・本体価格1600円+税

全国のキリスト教書店、Amazon、オリエンズ宗教研究所HPをご利用ください。

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5

TEL : 03-3322-7601 FAX : 03-3325-5322

ホームページ : <http://www.oriens.or.jp/>

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター

真命山 霊性交流センター

リーゼンフーバー神父キリスト教講座

ノートルダム・ド・ヴィ

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

サダナ瞑想

コングレガシオン・ド・ノートルダム アソシエート

聖ドミニコ女子修道会

慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。

記載には注意を期しておりますが、

詳細は各問い合わせにご紹介下さい。

よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み、関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり・内観瞑想センター」 藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送ります。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2014年予定

- S1 3/30 (日) -4/5 (土) 千葉白子・十字架 イエスベネディクト会
- N2 4/30 (水) -5/6 (火) 滋賀唐崎・ノートルダム
- K3 6/14 (土) -6/20 (金) **研修会** 東京・小金井・聖霊会
- T1 7/25 (金) -7/31 (木) 兵庫西宮・女子トラピスチヌ
- M2 9/9 (火) -9/15 (月) 宝塚売布・女子ご受難会
- K4 9/27 (土) -10/3 (金) 東京・小金井・聖霊会
- S2 10/5 (日) -10/11 (土) 千葉白子・十字架 イエスベネディクト会
- N3 10/26 (日) -11/1 (土) 滋賀唐崎・ノートルダム
- K5 11/29 (土) -12/05 (金) 東京・小金井・聖霊会

祈りの集い (午前10時～午後3時)

真命山の霊性

「聖母マリアと共に祈る」



自然 神はすべてを造り人の手にゆだねられた

陽の昇るところから 祈り
陽の沈むところまで



静けさ 沈黙の中に神の言葉を聞こう

信仰体験を 分つ 交わり

1月 9日	天使からのお告げをお受けになった時の聖母マリアの祈り
2月13日	エリザベットを訪れられた時の聖母マリアの祈り
3月13日	神の子イエスをお産みになった時の聖母マリアの祈り
4月10日	羊飼いたちや博士たちの訪問をお受けになった時の聖母マリアの祈り
5月 8日	聖ヨセフと共に神殿に登ぼり、イエス様をお捧げになった時の聖母マリアの祈り
6月12日	聖ヨセフと共にエジプトへ逃れられた時の聖母マリアの祈り
7月10日	聖ヨセフと共に神殿でイエスを見つけられた時の聖母マリアの祈り
8月	休み
9月11日	ナザレで聖ヨセフとイエスとご一緒の時の聖母マリアの祈り
10月 9日	イエスを探しに行かれた時の聖母マリアの祈り
11月13日	イエスの十字架のもとでの聖母マリアの祈り
12月11日	イエスの弟子たちと共に祈られた時の聖母マリアの祈り

指導者

フランコ・ソットコルノラ神父

(真命山院長)

ダニエレ サルティ・サルトリ

神父

Sr.マリア デ・ジョウルジ

申し込み先

865-0133

熊本県玉名郡和水町1391-7

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

TEL 0968-85-3100

Fax 0968-85-3186

E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

www.shinmeizan.org

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。
(要予約)

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
 どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
 キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下の土曜日、
 9時30分～12時30分、岐部ホール4階404、
 各時代の文書を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。キリスト教思想史に関心を持っている方、プログラム等に関してはHP(文末)を見て下さい。

2014年度のテーマ: 超越理解と理性の自己発見
 ー II 近世・近代・現代

「中世: 哲学・神学・神秘思想」(9世紀～15世紀)
 [中世末期]

04/05,04/12,04/26,05/17,05/24,05/31,06/14,06/28,07/05,07/12,07/26,09/06,09/13,
 09/27,10/18,10/25,11/08,11/15,11/29,12/06,12/20, 2015年 01/10,01/17,01/24,01/31,02/07

●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトゥールハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月12日は休み。8月26日は、クルトゥールハイム聖堂

●黙想

・「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
 どなたでも。但し祝日、8月12日は休み。8月26日は、クルトゥールハイム聖堂

・「お昼の黙想」毎月第1・第3火曜日 10時40分～12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
 どなたでも。但し祝日、8月5日は休み。

・水曜日 18時～18時30分 上智大学内クルトゥールハイム1階右、テレジア小聖堂。

どなたでも。但し祝日、4月30日、7月30日、8月全体、12月24日は休み。

・「通う霊操」8月23日(土)～8月31日(日)18時～20時45分 上智大学内クルトゥールハイム聖堂

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。講話、黙想、ミサがあります。
 4月5日、5月24日、6月14日、7月5日、8月16日、9月13日、10月18日、11月15日、12月6日、
 2015年1月10日、2月7日、3月14日

・ロザリオの祈り(上記同日のミサに続いて)16時10分～16時50分

●黙想会

[1泊6,600/7,000円程度

[関東]

2014年

05月10日(土)10時～11日(日)14時(上石神井)、

10月11日(土)10時～12日(日)14時(東村山)

11月22日(土)10時～23日(日)14時(東村山)、

2015年

02月28日(土)10時～3月1日(日)14時(上石神井)。

[関西]

10月4日(土)13時30分～5日(日)15時(宝塚)。

●坐禅会

・月曜日 17時20分～20時10分

・木曜日 17時30分～20時10分

上智大学内クルトゥールハイム1階左の部屋。3回坐り、間に講話。

但し祝日、4月17日、4月28日、5月1日、7月31日、8月全体、9月22日、12月29日は休み。

●坐禅接心

[秋川神冥窟] 1泊2400円(+暖房費)程度。

04月28日(月)20時30分～5月5日(月)10時

06月20日(金)20時30分～22日(日)10時

08月08日(金)20時30分～15日(金)10時

09月19日(金)20時30分～23日(火)10時

10月31日(金)20時30分～11月3日(月)10時

[関西]

7月30日(水)17時45分～8月5日(火)15時、宝塚市。

●アガペ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い・ミサ(14時～18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。

4月26日(土)、6月28日(土)、10月25日(土)、2015年1月25日(日)

・黙想会(アガペ会会員対象)6月7日(土)10時～8日(日)14時(東村山)、1泊6,600円程度。

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

リーゼンフーバー神父キリスト教

入門講座 2014年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

リーゼンフーバー神父キリスト教

理解講座 2014年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

- 04/11 信仰の道— 人生の意義を問う
04/18 ○休み(聖金曜日)
04/20 ◆復活祭のミサ(14時、上智大学内クルトウルハイム2階、80人限定)
04/25 聖書の人間像— 人間の現状と使命
05/02 ○休み
05/09 旧約聖書の神体験— 聞くことと見ること
05/10-11 ●黙想会(上石神井)
05/16 理性と神認識の道— 世界内存在を通して
05/23 創造された世界— 人間存在の根拠と自然の意味
05/30 歴史と信仰— 神との出会い
06/06 内なる神— その「似姿」としての人間
06/13 新約聖書の神理解— 主なる父
06/20 祈りによる神理解— 神の偉大さと近さ
06/27 救い主の役割— 人類の待望
07/04 神の国— イエスの告げるメッセージ
07/11 イエスの生き方— 神に遣わされて人に仕える
07/18 イエスのたとえ話— 神の働きを語る
07/25 イエスの人間関係— 罪人と弟子と共に
07/26 ◆感謝のミサ(14時、上智大学内クルトウルハイム2階、80人限定)
08/01,15 ○休み
08/08 イエスは誰か— イエスの自己理解(上智大学内クルトウルハイム2階)
08/22 最後の晩餐— 自分を与えるイエス(上智大学内クルトウルハイム2階)
08/23-31 ●通う霊操(18時-20時45分)(上智大学内クルトウルハイム2階)
08/29 イエスの受難— その史実と意図(上智大学内クルトウルハイム2階)

[基盤]

- 04/15 存在の超越と内在 — 神理解への道
04/20 ◆復活祭ミサ(14時、上智大学内クルトウルハイム2階、80人限定)
04/29, 5/6 ○休み
05/10-11 ●黙想会(上石神井)
[人間]
05/20 人間: 神の似姿 — 理性・自由・信仰
06/03 救いの歴史 — 時間における意義
[神]
06/17 無限への問い — 理性による神理解
07/01 世界の根源 — 創造的自由・進化・摂理
07/15 人生のうちに働く超越 — 神経験の多様な形
07/26 ◆感謝のミサ(14時、クルトウルハイム2階、80人限定)
7/29 「私は在る」 — 旧約における神の自己啓示と預言
08/05 ○休み
08/19 神の語りかけ — 「契約」と「救い主」の待望(クルトウルハイム2F)
08/23-31 ●通う霊操(18時-20時45分)
09/02 将来の約束 — 自立した世界の中の導き

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラウド・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

●「いのちの泉へ」 すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

4月26日「復活のキリスト」

5月31日「慈しみの愛」

6月21日「ご聖体と祈り」

講話 伊従 信子

午後2時～午後5時30分位まで、

講話、祈り、分かち合い。

参加費 200円

申し込み・お問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044

練馬区上石神井4-3
2-35

TEL(03)・3594・2247

FAX(03)・3594・2254

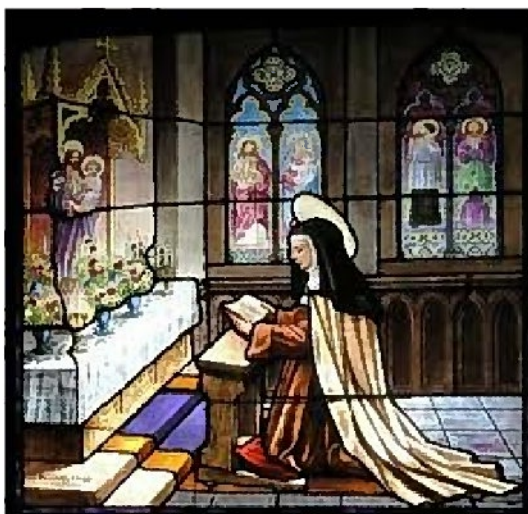
E-mail notredamedevie.japan@gmail.com

ホームページ

<http://www.ndv-jp.org/>



カルメル会の靈性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。



ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel： 077-579-7580
Fax： 077-579-3804
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2014年 4月29日(火)～ 5月7日(水)
- ② 8月14日(木)～ 8月22日(金)
- ③ 10月25日(土)～ 11月2日(日)
- ④ 12月27日(土)～ 2015年1月4日(日)

B. 祈りの体験：週末3日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2014年 2月7日(金)～ 2月9日(日)
- ② 2月28日(金)～ 3月2日(日)
- ③ 3月21日(金)～ 3月23日(日)
- ④ 6月20日(金)～ 6月22日(日)
- ⑤ 7月18日(金)～ 7月20日(日)
- ⑥ 9月26日(金)～ 9月28日(日)
- ⑦ 11月28日(金)～ 11月30日(日)

C. 講話 黙想 (奉獻生活者のため)

2014年 5月26日(月)～ 6月3日(火) 藤原 直達 師 (大阪教区)

◎ 対象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Fax で「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順 11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさいたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。)

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

★申込み受付・開始日の8日前で締切ります

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。 URL : <http://sadhana.jesuits.or.jp/>

コース	日時<指導者>	指導者	開催場所	申込み
入門 A	4/13(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会リヒト宣教室 (市ヶ谷)	若山美知子※ Tel & Fax 03-5802-3844
サダナ I	4/26(土)17:30- 29(火)16:00	Fr植栗	上石神井黙想の家	若山美知子※
ダイアリー	5/2(金)17:30- 5/6(火)16:00	Fr植栗	三位一体聖体宣教女会 東京修道院(東村山)	若山美知子※
自己を知る *1泊2日 ×2= 合計4日	5/10(土)9:30- 11(土)17:00 5/17(土)9:30- 18(土)17:00	Fr植栗	上石神井黙想の家	若山美知子※
ダイアリー	5/28(水)17:30- 6/1(日)16:00	Fr植栗	沖縄・聖クララ修道院 Sr 比嘉 Tel:098-945-8649 Fax:098-945-8720	
入門 B	6/8(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会リヒト宣教室 (市ヶ谷)	若山美知子※
日帰り フォロー アップ	6/15(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会リヒト宣教室 (市ヶ谷)	若山美知子※
入門 C	7/13(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会リヒト宣教室 (市ヶ谷)	若山美知子※

※不在の場合は、渡辺由子 Tel & Fax : 042-325-7554

◆サダナ I (入門 A. B. C)

体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

◆サダナ II

Iをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。



《一日静修へのおさそい》

テーマ 「アヴェ・マリアを生きる」

指導 中川 博道師(カルメル修道会)

日時: 5月31日(土)10:00~16:00 受付 9:30~

場所: コングレガシオン・ド・ノートルダム調布修道院

対象: 男女・年齢を問わず、どなたでもどうぞ

会費: 2,000円(昼食代を含む)

申込: 事前の申込みは不要です。

直接修道院において下さい。

問合せ: コングレガシオン・ド・ノートルダム調布修道院

〒182-0034 調布市下石原 3-55-1

☎ 042-482-2012 (平日 9:00~17:00まで)

主催: コングレガシオン・ド・ノートルダム アソシエート

* 当修道院は新宿より京王線で調布駅下車。

北口、南口から徒歩で20分。タクシーで5分。

マルガリタ幼稚園と同じ敷地内です。



青年の集い

聖ドミニコ女子修道会 主催

ネット社会の狭間で生きている私たちは、真剣に自分と向き合っ生きてることが難しくなっています。

ちょっと立ち止まって、神様との関係、自分との関係、隣人との関係を、講話、分かち合い、祈りを通して、「愛されて生きる」生き方について考えてみませんか。

テーマ：愛されて生きる

指導司祭：小西広志神父(フランシスコ会)

日時：2014年5月10日(土)15:30~11日(日)16:00

場所：カルメル会 上野毛黙想の家

(世田谷区上野毛2-14-25 東急大井町線上野毛駅下車徒歩6分)

対象：18才以上35才まで(青年男女)15名募集

参加費：3千円 / 締切：4月30日(水)

申込・問合せ：聖ドミニコ東京修道院

TEL：03-3709-0021 / FAX：03-3709-3630 担当：Sr. 佐藤

e-mail：tashiro@kuc.biglobe.ne.jp (聖ドミニコ女子修道会)

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
— 観想の祈りへの道 —

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室 14:00～16:00
12月のみマリア聖堂（ミサ有り）

4月10日(木) 『靈魂の城』 第6の住居・第3章
6月12日(木)、9月11日(木)、11月13日(木)

アピラの聖テレジアの「靈魂の城」を読んだ後、一緒に沈黙で祈ります。
すでに大分読み進んでおりますが、途中からの参加もかまいません。

* 参加費無料（献金歓迎）

* 問い合わせ先：042-473-6287 篠原

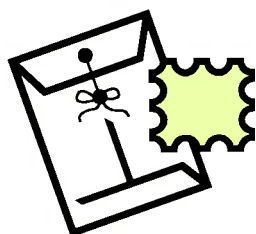


九里彰神父（カルメル会日本管区長）

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

靈性センターニュース

* 年間購読(郵送)のご案内 *



ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。

例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号休刊を除きます）
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込先：下記の靈性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会上野毛修道院 「靈性センター事務局」

《e-mailでのお申込み》

tokyo@carmel-monastery.jp

献金振込先：靈性センターニュースの最終ページをご参照下さい

*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171

Fax: 03-3704-1789

『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



編集後記

先月、名古屋の聖テレジア幼稚園で、卒園式があった。教会聖堂が会場となり、祭壇の前にひな壇が設けられた。私も招かれて、前の方に座っていると、開式とともに、卒園児が入場してきた。一人ひとり、ゆっくりと、ひな壇の所定の位置に座っていく。中には少し間違えている子もいたが、リハーサルで先生方に言われたとおりなのであろう、みな整然と上手にやっていた。

朝のお祈り、聖歌、それから一人ずつ名前が呼ばれ、ひな壇から降りてゆき、修了証書を園長先生から、十字架を神父さんから受け取っていく。これも、みな少し緊張しながらも立派にやる。その間、おしゃべりもせず、みんなじっとしている。

お祝いの言葉を園長先生が涙ながらに語った後、私も一言。「今日の日を、だれよりも喜んでいるのは皆さんのお父さん、お母さんでしょう。でも、もっと喜んでいる方がいらっしやいます。だれか分かるかな。それは、天のお父さん、神さまです。なぜなら、みなさんは、みんな神さまの子供だからです。聖テレジア幼稚園を卒園しても、このことを忘れないでください…。だが、本当の意味で「神さまの子供」であることを悟ることは、いかに難しいことか。純真な子供たちの姿を見ながら、子供たちは、大人よりずっとこの真理を理解しているように思えた。

(P.九里)



.....製本／発送のご協力お願い.....

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に[毎月最終週の火曜日](#)に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「5月号」製本日

[4月30日\(水\)](#) 上野毛教会信徒会館ホール 1 階
午後 1 時半頃から～ [水曜日になります。ご注意ください。](#)

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171